

●現場から！ 児童館活動●

# 「幸せを撮る」展 久万山からのメッセーじ

社会福祉法人育和会N・KONIKO館

伊東 道子

●これでもいいのか久万の子？

久万山なんて聞くと、いったいどんな山奥だろう……。熊でも出没するのかしら？と、思ってしまう方もいらっしゃるかもしれませんね。



さすがに熊は出ませんが、道路

を狸が走り回り、雉やいのししが畑を闊歩する、まことにのどかな町です。そんな久万町で過ごしている子どもたちは、シャイで恥ず

かしがりや、のんびり穏やかに、過ごすのもいいけれど、こんなに可能性のある子どもたち

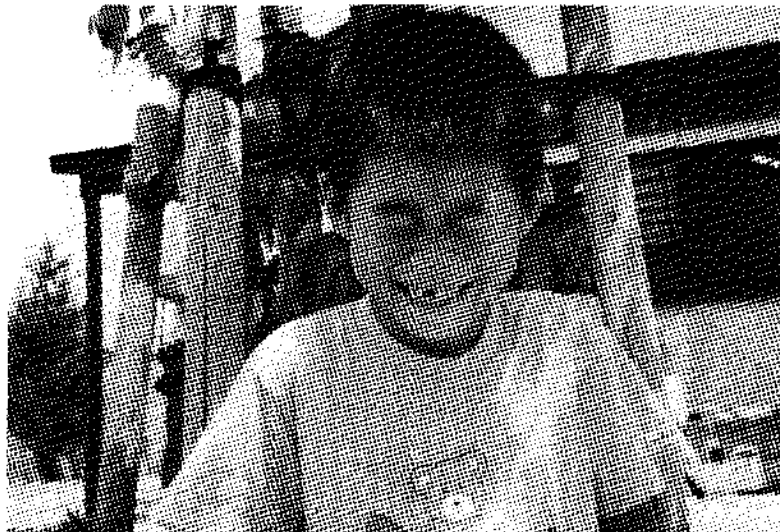
を、ぼんやりのんびりだけで終わらせていいんでしょうか!? そういった気持ちも、少しあるのも事実です。それなら、児童館として、子どもたちの可能性を花開かせるために、どんなきっかけ作りができるだろう。そう考えて取り組んだのが、「ドリームワークス事業」です。

●夢を持って！「ドリームワークス」

音楽ワークス・芸能ワークス・美術ワークス、それぞれに、自分の夢を仕事にしている方、夢を持って生きている方を、講師にお招きし、参加型のイベントを企画しました。テレビなどでおなじみのマジックやジャグラー。でも実際に間近でやり取りしながら観る本物のショーはひとあじもふたあじも違うみたい……。ちよつと難しいかなと、思っていたピアノコンサートも本物を聴かせたいというポランド人ピアノニストの熱意で、迫力のうちに終わりました。ジャズコンサートにいたってはなんだかかっこいいぞと思わせるナイスミドルの方々の手作り楽器を使つてのジャズ

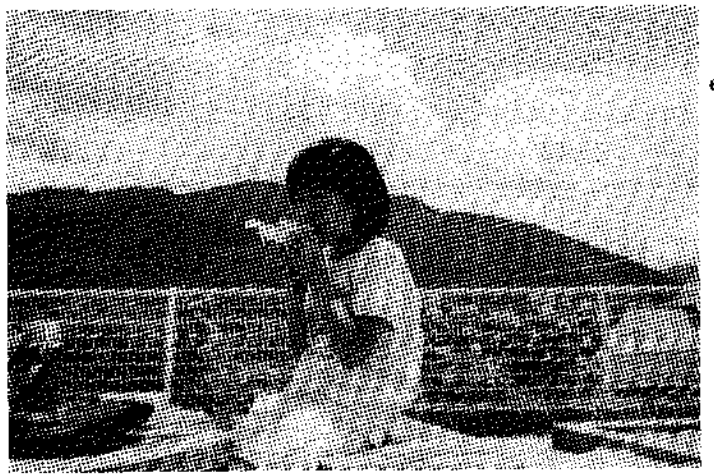
セッションが実現!!

子どもと遊ぶことはプロでも、音楽や芸能に関しては全くの素人、児童館スタッフに足りないもの、それらをすべて講師の方からいただいて、子どもたちは、本物のすばらしさを体験することができました。



●自分達もできるのかなあ。

音楽や芸能ワークスから受けた刺激は、そのまま子どもたちのこんな気持ちにつながります。「自分はどんなことができるんだろう」そう、そこなんです。ドリームワークスの



目的は、子どもたちの心の中の夢にポットと灯がともりました。

美術ワークスは平成12年度1年間をかけての継続活動。

講師は日本画家。題材は、「カメラ」です。絵ではなく、カメラにしたのは理由がありません。継続活動といっても毎回同じ子がくるわけではありません。いつ誰がきてもすぐに作品になるもの。年齢に関係なく作品として仕

上がるもの、子どもが喜ぶ素材であること。これらをすべて満たしているものが「カメラ」だったのです。

さて、子どもたちの反応は？

「えーっ、これ使ってもいいの？」(いいよ、いいよ。全部君の好きなように)

「ウヒョーッ!!」(たぶん最上級の喜びの表現??)

そして写真のテーマは「幸せ」。

### ●幸せってなんですか？

さて、皆さんはこう聞かれたらなんと答えますか？

カメラを持ったその日から、NIKON I

KO館の子どもたちの幸せ探しが始まりました。

「幸せってどんなとき？」

「遊んでるとき!」「お母さんといるとき!」

「じゃあ、幸せなときはみんなどんな顔してる？」

「にこにこしてる!」

それじゃあ、笑顔を撮りにいこう!

こうして第1回目の撮影会は始まりました。

### ●カシャッ

笑顔から始まった幸せ探しは、友達・家族・街の人・大切なものへと、広がっていきました。毎回自分専用のカメラを持って、写真を撮った子ども達。その数、なんと数千枚にも及びました。

現像ができてくると、スタッフが仕分け作業です。誰が撮った写真か・どんな会話があったのか・子どもたちのつぶやきは…おびただしい量のアルバムとビデオテープができます。アルバムをめくると、写っている人や物にダブって、そのときの様子や撮った子どもの顔が浮かんでくるから不思議です。

一つの分野に関しての特別な才能を、子どもたちのために伝えてくれる講師。

ふだんの遊びや生活を通して、子どもとの信頼関係が出来ているスタッフ。

活動するのに十分な予算。

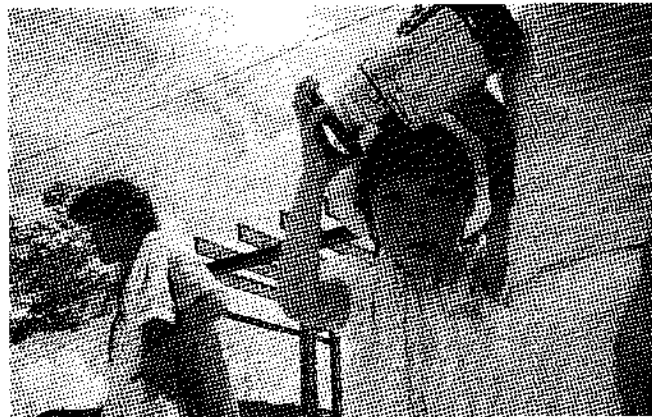
それらをNIKON I KO館という児童館の中で粘土のようにこねまわして、自分達にあ

った活動に作り上げたのがこのドリームワークスだったのかもしれない。

人とお金と場所と時間、何をするにも必要なこれらのものを、けれど、それぞれがばらばらでは何の効力も発揮できないそれらのものを、うまくコーディネートしていくのが児童館の役割かもしれません。

### ●ポットと発信

さて、今までの活動はすべてNIKON I KO館ホームページで公開してきました。



愛媛の山あいの小さな町で、「子ども達に夢を持ってもらいたい」と始めた「ドリームワークス事業」。そろそろ終わりに近づいてきました。けれど終わりは始まりの合図。NIKON I KO館の子どもたちが発信した「幸せってなんですか?」

その答えをもとめて、もつともつと全国の方との交流をしていきたいと思います。